

国語【中学校第3学年】

正答の状況

年度 種別	平成29年度		平成28年度	
	国語A	国語B	国語A	国語B
平均 正答数	県 24.1問/32問	6.3問/9問	24.4問/33問	5.8問/9問
	全国 24.8問/32問	6.5問/9問	25.0問/33問	6.0問/9問
平均 正答率	県 75%	70%	74%	64%
	全国 77%	72%	76%	67%

今回の調査結果から明らかになった成果と課題

○成果1<A問題>	書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書くこと
○成果2<A問題>	楷書と行書の違いを理解すること
▲課題1<A問題>	相手に分かりやすいように語句を選択して話すこと
▲課題2<B問題>	表現の仕方について捉え、自分の考えを書くこと

成果が見られた問題の概要例

○成果1<A問題> 設問番号 3 一

【言語活動との関連】
【第2学年】B書くこと
A表現の仕方などを工夫して、詩歌をついたり物語などを書いたりすること。

【設問の概要】
書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書く。

【平均正答率】

	本県	全国	差	自校
3 一	87	86	+1	

○成果2<A問題> 設問番号 9 六 1

【設問の概要】
楷書と行書の違いを理解する。

【平均正答率】

	本県	全国	差	自校
9 六 1	61	50	+11	

【言語活動との関連】
【第2学年】B書くこと
A表現の仕方などを工夫して、詩歌をついたり物語などを書いたりすること。

【設問の概要】
楷書と行書の違いを理解する。

【設問の概要】
書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書く。

【平均正答率】				
	本県	全国	差	自校
9 六 1	61	50	+11	

【平均正答率】				
	本県	全国	差	自校
3 一	87	86	+1	

- 成果1については、正答率87%であり、相当数の生徒ができています。事象や行為を表す多様な語句の使い方について理解できています。
- 成果2について、毛筆書写の時間が確保され、楷書と行書の違いが理解されている。しかしながら、次の設問9 六 2「行書の特徴」については、正答率は60%に達しておらず、指導事項の定着が十分に図られているとは言えない状況にある。

課題が見られた問題の概要，問題点とその改善点，授業づくりのポイント＜B問題＞

課題が見られた問題の概要＜B問題＞

▲課題2＜B問題＞ 設問番号 ① 三

【設問の概要】
 比喩を用いた表現に着目し，感じたことや考えたことを書く

【平均正答率（％）】

③	本県	全国	差	自校
	40	41	-1	

【言語活動との関連】

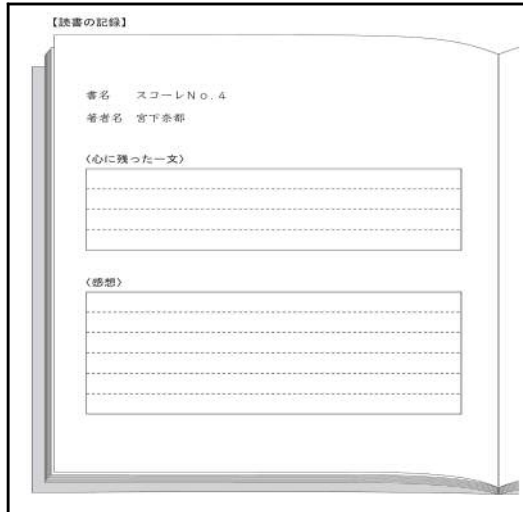
〔第1学年〕

C 読むこと

ア 詩歌や物語などを読み，内容や表現の仕方について感想を交流すること。

＜誤答傾向＞

正答	解答類型	傾向（％）
○	次の条件を満たすこと。 ① 〈心に残った一文〉に【本の一部】から比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書いている。 ② 〈感想〉に①で取り上げた表現について，「誰（何）」の「どのような」様子が明確にして書いている。 ③ 〈感想〉に①で取り上げた表現について，感じたことや考えたことを具体的に書いている。	
	条件①，②，③を満たしている。	40
	条件①，②を満たし，条件③を満たしていない。	3
	条件①，③を満たし，条件②を満たしていない。	10
	条件②，③を満たし，条件①を満たしていない。	8
	上記以外の解答	27
	無解答	12



三 青山さんは、「本の紹介カード」にある「比喩を用いた表現」に着目して【本の一部】を読み，感じたことや考えたことなどをあとの「読書の記録」に書いています。あなたなら「読書の記録」の〈心に残った一文〉と〈感想〉にどのようなことを書きま
 すか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。
 なお，読み返して文章を直したいときは，二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。
 条件1 〈心に残った一文〉は，【本の一部】から，比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書くこと。
 条件2 〈感想〉は，条件1で取り上げた表現について，「誰（何）」の「どのような」様子なのかを明確にした上で，あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

問題点とその改善点（B問題）

○ 本問題については，第1学年の「B 書くこと ウ 伝えたい事実や事柄について，自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと」，「C 読むこと エ 文章の構成や展開，表現の特徴について自分の考えをもつこと」，「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(オ) 比喩や反復などの表現の技法について理解すること」等の複合的な力が必要であり，B問題の中で最も正答率が低い結果となった。複合的な力の中でどの力が不足しているのか確認し，各学校で再指導を行う必要がある。

複合的な力の育成を

複数の力を絡めながら問題を解決していく学習過程は，学習者に大きな負荷がかかる。本問題の正答率の低さや無解答率の高さからも，問題解決の過程の中で生徒たちが問題を解くのに苦労している様子がうかがえる。しかしながら，今後，子供たちが実生活の中で直面する問題は，何か一つの力があれば解決していけるものではなく，身に付けた知識や技能をつなげ合わせたり，周囲の人々の力を結集したりして解決して解決していくものである。

そこで，国語科の学習の中においても，単元や題材など内容や時間のまとまりの中で，課題を設定し，学習計画の立案，知識や技能の活用，必要な情報を収集・活用，グループでの対話を通して課題を解決していくことが必要である。

指導事例については，「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～」【中学校版】（平成23年5月 文部科学省）や平成29年度（中学校）全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた「授業アイデア例」等を参考にしながら，学びがいのある学習を創造していくことが，子供たちの言語能力を育むことにつながる。